

急性膵炎とは

近頃、急な腹痛で受診する患者さんに急性膵炎が増加しています。1985年頃には年間1万5千人程度でしたが、最近では年間3〜4万人と倍以上になっていきます。その原因としてはアルコールの多量摂取による者が約35%、胆石による者が約25%です。しかし、はっきりとした原因がわからない例もあります。

自覚症状は腹痛、特に食後に強くなります。部位は上腹部がほとんどです。吐き気や嘔吐を伴うこともあります。特徴的なことは、膵臓の解剖学的な位置にも関連しますが、背中が張ったような感じがすることが多いようです。

上腹部痛が主訴のため胃の病気と間違えやすい病気で、胃の内視鏡検査が行われ、異常がないと診断され、長期に胃の薬を服用する例が多くみられます。症状が長く続く時は「膵臓は大丈夫か」尋ねることも必要でしょう。

膵臓は体の中では胃袋の背中側にあり、胃の病気の時と同じような症状がでてきます。膵臓は長さ約15cm、厚さ2〜3cm、重さが100〜120gの小さな臓器ですが大きな二つの役割を持っています。一つは糖尿病をコントロールするインシュリンやグルカゴンという内分泌ホルモンの産生です。以前に述べた膵臓内のランゲルハンス島の細胞がこれを作っています。この働きが悪くなると糖尿病を起します。

もう一つの役割は炭水化物・脂肪・蛋白質という三大栄養素の消化・吸収に役立つアミラーゼやリパーゼなどの多くの消化酵素を膵臓内の腺細胞で産生して十二指腸に排出する外分泌腺としての役割です。

通常の体内では、十二指腸や小腸において、食物と消化酵素が交わり消化・吸収が行われます。しかし、アルコールの大量摂取などにより膵臓に急激な変化が起こると、消化酵素が自分の膵臓組織を破壊

するように働きます。このため局所に強力な炎症が起こり、急性膵炎となります。重症の急性膵炎では周囲の臓器に影響を与えることがあります。腹膜炎を起し、全身の状態が不良になり、死に至る場合もあります。

急性膵炎の治療は胃や腸管を安静にすることであり、食事や水分の摂取を控えます。重症では完全に食事を禁止し、点滴による水分補給が必要です。長期になる場合には栄養も考慮しなければなりません。その他に消化酵素の働きを押さえる薬の点滴投与、感染症の合併を押さえる目的として抗生物質の投与も行われます。

急性膵炎の予防としては、飲酒の制限がもっとも重要です。胆石がある場合にはその治療も必要です。膵臓は消化・吸収に関連する大事な臓器です。暴飲暴食をやめ、3食をきちんと摂る規則正しい生活が大切です。

◆救急当番日
1月2日(金)・12日(月)
2月8日(日)
午前8時30分〜
午後5時15分

◆問い合わせ
東陽病院 ☎1335
URL: www1.ocn.ne.jp/~toyohp/

◆救急当番日
1月2日(金)・12日(月)
2月8日(日)
午前8時30分〜
午後5時15分

◆救急当番日
1月2日(金)・12日(月)
2月8日(日)
午前8時30分〜
午後5時15分

◆救急当番日
1月2日(金)・12日(月)
2月8日(日)
午前8時30分〜
午後5時15分

◆救急当番日
1月2日(金)・12日(月)
2月8日(日)
午前8時30分〜
午後5時15分



東陽病院院長 伊藤 文憲

事業所健診のご案内

東陽病院では、事業所健診を行っています。事業所で働くみなさんの健康管理のために、ぜひ当院の健康診断をご利用ください。

※労働基準法・労働安全衛生法では、事業主は事業所で働く方々に対し、基本的に年1回、医師による健康診断を行うことが義務づけられています。

健 診 内 容	
1. 既往歴及び業務歴の調査	7. 胸部X線検査
2. 自覚症状及び他覚症状の有無の検査	8. 心電図検査
3. 身長、体重、血圧、腹囲測定	9. 貧血検査 (血色素量及び赤血球数の検査)
4. 尿検査 (糖、蛋白)	10. 肝機能検査 (AST、ALT、γ-GTP)
5. 視力検査	11. 血中脂質検査 (HDLコレステロール、LDLコレステロール、中性脂肪)
6. 聴力検査 (1000Hz及び4000Hzの音に係る聴力)	12. 血糖検査

◎35歳及び40歳以上の方については必須項目です。

◎34歳以下及び36歳〜39歳の方は、医師の判断で腹囲測定・血液・心電図を省略することができます。

※料金等については、お問い合わせください。

◆問い合わせ 東陽病院 ☎84-1335